

令和7年度組織目標 知事協議概要

部 局 名	商工観光労働部
日 時	令和7年(2025年)4月17日(木) 13:00~13:50
場 所	特別会議室
出 席 者	知事、東副知事、岸本副知事、知事公室長、総合企画部長、総務部長、総務部管理監 部長、次長(兼)管理監(女性活躍担当)、管理監(産業立地担当)、観光振興局長、商工政策課長、産業立地課長、中小企業支援課長、イノベーション推進課長、労働雇用政策課長、女性活躍推進課長、観光振興局副局長(兼)観光企画室長、労働雇用政策課産業ひとづくり推進室長、観光振興局シガリズム推進室長、観光振興局ビワイチ推進室長

発言者	発言概要
総合企画部長	「ここ滋賀の拠点機能の最大化」について、具体的にはどのような取組を想定しているのか。
観光振興局長	これまでの取組でここ滋賀の売上や来館者数は伸びてきているが、それだけがここ滋賀に求められている機能ではない。 例えば東京へ出向いて出店される県内事業者への支援やイベントと一緒に協力して実施、また来館者に滋賀への誘客を促す観光コンシェルジュなどの取組も重要。東京・日本橋の立地の良さを最大限に活用して取り組んでいく。
総合企画部長	確かに単に「モノを売る」だけではなく、情報発信や販路拡大、あるいは滋賀ゆかりの方のハブ機能を担っていくような機能を追求したり作っていただきたい。 何か具体的な目標を掲げて取り組むと良いと考えている。
部長	ここ滋賀の機能が最大限に生かせるように追求し、そこを言語化して、しっかり議論していかないといけない。
総務部長	外国人材の就労支援、長期に活躍いただくための支援について、市町との連携以外にも外国人労働者や実際の受け入れ企業から意見や現状の課題などを聞いておられるか。
労働雇用政策課 産業ひとづくり 推進室長	日頃から外国人材受入サポートセンターにおける相談業務の中で対応している。 また、受け入れ企業側に対する支援として、「日本語・ビジネスマナー講座」を実施する中で、実際に受講されている外国人や企業側からの声を聞き取った課題などを踏まえて、次の施策検討に反映させたいと考えている。
知事公室長	ジェンダーギャップの解消について、実効性のある取組を進めていただきたい。 「庁内各課に意欲的な目標の設定を働きかける」とあるが、商工観光労働部が全庁的に音頭を取って施策に組み込んでいただきたい。 また、男女共同参画意識の定着に向けた教育・啓発について、身近な地域でのジェンダーギャップの解消が課題と考えているが、各地域での男女共同参画に向けた啓発などを実施できないか。
女性活躍推進課 長	パートナーしがプラン2025で掲げている目標については達成には至っていない項目もあるが、次期プラン策定に当たっては、ジェンダーギャップ解消に向け望ましい社会の状態を目指すための目標となるよう、庁内各所属と丁寧に議論しながら策定作業を行っていく。 男女共同参画意識の定着に向けた教育・啓発として、小中高生に向けた副読本による啓発も行っているが、まだまだ目標達成には至っていない。 引き続き目標達成に向けて取り組んでまいりたい。 また、今年度は新規事業としてジェンダー平等のための「大人の学び・やりませんか？」事業に取り組むこととしており、現在委託に向けたプロポーザルの準備をしているところ。 様々な視点から学び考える講座や意見交換会を実施する予定で、経済団体などとも協力しながら実施していく。 地域自治会などにも案内していく。
東副知事	次期パートナーしがプランの策定に当たって、策定過程を大事にして進めたいという話があったが、具体的にどんなことを考えておられるのか。
女性活躍推進課 長	まさに今、策定に向けて作業を進めているところであり、骨子案などを作成して改めて協議させていただく。 その中で例えば、各種委員会の女性委員の割合、農業委員などはじめなかなか増えない状況が続いているが、女性登用の割合が増えないから目標を下げるのではなく、意思決定過程に女性の意見をしっかり反映させていくことが大事という視点を大事にしながら、教育委員会や人事課はじめ関係課と協議・相談しながら進めていく。

発言者	発言概要
東副知事	庁内の連携も大事だが、庁外ともしっかりと連携して進めていただきたい。
女性活躍推進課長	市町や関係団体、企業などで働く女性からの声も伺っているが、まだまだ男性の家事や育児などへの参画が進まないため働きたいと思っても制限してしまうという声が結構聞かれた。そういった現場の声なども踏まえて、計画の中でどのように目標設定すればより改善につながるか考えているところ。
次長	先日部長とともに連合滋賀へ伺う機会があったが、そこでもジェンダーギャップ解消や企業における女性活躍推進に対して課題意識を持っておられると感じた。
東副知事	そういう関係団体との意見交換の場などの機会も活用することが、県のジェンダーギャップ解消に向けた取組の啓発やアクションをしていく良い機会になると思う。
女性活躍推進課長	経済団体のみならず、大学生など若年層とも意見交換に努めており、次期プラン策定に反映させていきたい。
東副知事	複数の所属から組織目標で「現場に出向いて、現場を大事に」と表明があった。しっかりと地域や企業の声を聞くことは大事である。また、中小企業の「稼ぐ力」を高めるという観点は重要である。製造業などの第二次産業は意識されている企業が多いと思うが、第三次産業についても生産性を高める取組が大事と認識しているが、そういった産業に向けた働きかけなどは考えておられるか。
商工政策課長	長引く物価高騰の影響などを受ける中小企業等において、生産性向上や新規事業展開、人材育成などの未来を見据えた意欲的な取組を後押しする滋賀県未来投資支援事業を今年度も実施する。この未来投資支援事業は製造業のみに限らず、農業や建設業の分野でも幅広く取り組んでいただける補助金である。例えば事業のDX化などの生産性向上をはじめとした様々なメニューに活用いただける。こういった取組を早期に、着実に活用いただき、事業者の「稼ぐ力」強化につなげたい。
観光振興局シガリズム推進室長	観光産業についても同様に事業者の「稼ぐ力」を上げていく必要があり、魅力ある観光まちづくり活性化事業を進めていく。県内各市町と連携し、地域が自ら関わっていただき、一緒に圏域での特別企画を実施することにより観光消費につなげ、地域活性化を図りたい。事業者とビューローが市町を巻き込んで、地域が盛り上がる施策を進めていきたいと考えている。
東副知事	旅館などの業界も人手不足に悩んでおられるため生産性向上が課題となっている。そういった産業にも「稼ぐ力」が強化できるような取り組みをお願いしたい。
岸本副知事	1点目、「水・環境ビジネス」について、先日インドの方と話す機会があったが、水・環境ビジネスに強い関心をもっておられた。世界からの「水」に対する期待、我々日本人が思っている以上に注目されていると感じた。2点目、スタートアップの育成について、県外の取組として東京でのPRという説明があったが趣旨を伺う。3点目、ジェンダー平等を推進する上でのプラットフォームづくりの今年度の取組内容を伺う。4点目、湖上交通について初日以降の利用状況はいかがか。予約方法や乗船の仕組み、乗船に対する付加価値などについて検討する必要があると感じている。5点目、ピワイチについて様々な取り組みをやっていただいていると認識している。子ども達と話す機会にピワイチについて聞いてみると、距離の短いしまなみ海道よりもピワイチの方が距離が長くても走りやすかったという意見を聞いた。気軽に楽しめるピワイチを進めていただきたい。紙のピワイチMAPが古い情報のままになっているので、更新をお願いしたい。
観光振興局ピワイチ推進室長	ピワイチは他県のサイクリングロードなどと比較しても、平坦でアップダウンが比較的に少ないので走りやすい。
観光振興局シガリズム推進室長	湖上交通について、まだ取組が開始したばかりではあるが4月12日(土)は127名の方に乗船いただいた、4月13日(日)は荒天が影響し18名であった。その後ヒアリングでは、天候面の課題や、朝の時間帯に人が少ないなどの課題が見えた。今後は例えば周辺ホテルと連携した取組など、少しでも乗船してもらいやすい環境づくりについて、県も一緒になって取り組んでいきたい。

発言者	発言概要
観光振興局長	<p>以前に琵琶湖博物館にいた頃から企画していた湖上交通が、ようやく運航の運びとなった。例えばおごと温泉にご宿泊の方にも車を停めてそのまま琵琶湖博物館に行っていただけるよう、各旅館等で周知していただけるよう依頼している。</p> <p>また、先日オープンしたラーゴ来場者にも案内いただくようにラーゴのHPでも湖上交通のPRをしていただいている。</p> <p>ラーゴ（たねや）からも「来場者に琵琶湖のことも学んでほしい」という想いを聞いており、様々な方に湖上交通を知っていただくPRを行う。</p> <p>まずはできるところから始め、動きながら改善していこうとの方針。</p> <p>琵琶湖博物館のチケットの販売方法なども検討を行っているところであり、効率よく乗船を促せるようにしたい。</p>
イノベーション推進課長	<p>県内スタートアップ企業の発信の場として東京を候補に選んでいる趣旨として、東京は世界中から様々なヒト・モノ・カネが集積する、一番鍛えられる場と認識している。</p> <p>東京都と協議して東京イノベーションベースという施設を無償で利用させていただける方向で調整を進めている。</p> <p>ほかにも愛知県や大阪府にもスタートアップ企業の魅力発信の場があり、そういう場所も活用しながら県内スタートアップの発掘・育成を行ってまいりたい。</p>
女性活躍推進課長	<p>プラットフォームについて、現在は女性の起業支援として起業家を増やし、どんどん裾野を広げているところ。</p> <p>プラットフォームがあることで次の段階へ進みやすくなるなど、とても有効なものと考えており、プラットフォームづくりを目標にして取り組んでまいりたい。</p>
商工政策課長	<p>大阪・関西万博を契機とした水・環境ビジネスについて、滋賀県はこれまでから環境に配慮した取り組み、水ビジネスの基盤があり、技術力もある。</p> <p>「世界湖沼の日」制定を契機に水ビジネスへの関心が益々高まるチャンスであり、しっかりと県内企業の技術力をアピールしていく。</p>
知事	<p>昨年度の商工政策課長が水・環境ビジネスについてこの場で強調されていたが、現在の取組状況や実績は如何か。</p>
商工政策課長	<p>昨年度の9月に「Tech Tour SHIGA」の窓口を立ち上げたばかりだが、ベトナムから県内企業に視察に来られている実績が1件ある。</p>
知事	<p>万博を契機にということだが、アツという間に閉幕してしまう。</p> <p>何も結果に繋がらずに万博が終わってしまうことがない様に取り組んでいただきたい。</p> <p>待っているのは多分話は来ないだろう。</p>
部長	<p>「Tech Tour SHIGA」は受入体制もしっかり整備した。</p> <p>問い合わせを待っているのではなく、いかに必要な国や企業に向けて情報をこちらから届けていくか。</p> <p>昨日、中小企業基盤整備機構に伺ったときに、万博期間中、各国とのビジネスマッチングの場として商談会等を開催しているとのことであり、そういった機会や関係機関とも連携していきたいと考えている。</p> <p>また下水道や上水道について視察したいという話もあると伺った。</p> <p>こういった関係者と繋がり、意見交換を進めていけば、より良い方向に進められるのではないかと思います。</p>
知事	<p>水・環境ビジネスの展開、特定の企業だけに偏らないような注意が必要。</p>
観光振興局ビワイチ推進室長	<p>今年度のビワイチの日等では、子ども向けのガイドツアーを実施する計画としている。</p> <p>ガイドツアーでは、近江鉄道に自転車を持ち込んで移動する企画も準備している。</p>
知事	<p>どれぐらい参加があったのか。</p>
観光振興局ビワイチ推進室長	<p>昨年度は荒天で中止した日があったので、参加者数は減少したが、1日あたりの参加者は増加している。</p>
知事	<p>ビワイチの「だれでも、いつでも、どこでも」の視点は大事。</p> <p>どうやってやるか具体的に考えてよい。</p> <p>整備や案内も大事。</p> <p>何かもう一ひねりが必要。</p> <p>近江鉄道と組むのもよい。</p>

発言者	発言概要
観光振興局ビワイチ推進室長	<p>自転車販売台数や、ネット検索数からうかがえるように、近年、サイクリング自体への関心は落ちてきている中であって、ビワイチはネット検索数などの関心度合いも横ばいか上向きである。 ビワイチで宿泊される方の割合も増加しており、これまで取り組んできた方向性は間違っていないと考えている。</p>
知事	<p>是非とも住んでいる人にも喜ばれるビワイチを目指して欲しい。</p>
知事	<p>冒頭の部長の発言にあったとおり、パーパスを意識した商労観光労働行政、特に3つめの「豊かな未来をともにつくる。」については、女性も男性も、外国人も、大学や企業、中小企業もちろん「ともに」つくっていく関係者である。 パーパス3つ目を実践していくということは、商労部のコアな事業がたくさん含まれていると感じている。 それを読み解くと「どれぐらい稼ぎ、どれぐらい雇う、どれぐらい投資してもらおう、どれぐらい消費してもらおう」ということを念頭に、「付加価値をどれぐらい上げるか、いくらぐらい上げるか」を描いて今年度試しにやってみて、そして来年度以降の豊かな未来につないでいく。 そしてそのことにいくら予算をかけるか。 やはり商労部の施策は「いくら予算を掛けて、いくら稼ぐ、いくら雇ってもらおう、いくら投資してもらおう」という説明をしてほしい。</p> <p>ジェンダー平等、今年度はすごく大事だと思っている。 ジョブディスクリプションの1番目に入れているがゼロ番目ぐらいの特別な想いを持っている。 これは商労だけでなく全庁・全県に関わる話である。 もちろん庁内もそうだが、企業や自治会、農業団体や経済団体など、いろいろところで学びや気付きの機会を与えると同時に、こうやれば上手くいく的なアプローチでも良いのではないかと。 先進的ががんばっていただいている企業だけでなく、福祉団体でも率先してやってくれているところもある。 いくつかの課から「現場へ」という話があったが、顔の見える関係づくりは良いと思う。 どんどん現場に行ってください。 どこに行くのか、どの業種、どの地域などある程度絞ったら良いと思う。 例えば「今年度は湖北に限ります」でも良い。 4つ目は産業の捉え方を変えていきたいと考えている。 例えば健福に言っているが製菓業、相当稼いでくれている、納税していただいているが、その立地やひとづくりなどをどう考えているかと、健福に問いかけても業務課が担当しているがあまり産業として見られていない。 観光も産業で捉えるとか、映像、映画コンテンツなども新しい分野として産業という観点で見たい。 最後に「困りごと」と「挑みごと」を施策に反映することに取り組んで欲しい。 万博は千載一遇のチャンスだから、これも徹底して生かしてほしい。 この時に何か一つでも二つでも種子を植えて育てられるように今年度は頑張りたいと思う。 商労部の職員は、4月中に万博にいったどんな国・企業がどのような出展をしているのか、また来場者がどのような表情をされているのか、見に行ったらよいと思う。 施策に反映させて、自由にやってください。</p>